

系

～いと～



知-ガン さわやかなあいさつ 文武両道 光る汗！
野木町立野木中学校 学校だより
令和7年度7月①号 文責:校長 星 育夫

親学習プログラムで学ぶ

～家庭教育学級開講～

6月5日(木)に令和7年度家庭教育学級が開講しました。第1回は下都賀教育事務所ふれあい学習課の河原千枝社会教育主事をお招きし、「思春期の子どもの接し方」をテーマとした親学習プログラムで研修を行いました。「親学習プログラム」は保護者が互いに日ごろの子育てなどを語り合いながら、家庭教育について学びあい、つながりをつくることを目的とした参加体験型の学習プログラムです。



いくつかのアイスブレイクで打ち解けた受講生は、『思春期の子どももあるある』や悩みなどを共感しながら話し合いました。思春期の子と親をテーマとした映像資料にみんなで涙しました。(思いはいつか必ず伝わる…)

一致団結 協力から 深まる友情！

～1年生 校外学習 in みかも自然の家～

6月6日(金)1年生は、栃木市の「県立みかも自然の家」で校外学習を行いました。本施設は、昨年できたばかりで、本校の行事等で利用するのは初めてでした。(どの設備も新しく、スタッフの方々もとても親切でした。)

校外学習午前中のミッションは、みんなで協力してアウトドアクッキング。薪割り火おこし、飯盒でのご飯作り、カレー作りに分かれて作業に取り組みました。各グループとも素晴らしいチームワークで時間内に美味しいご飯とカレーを作ることができました。自分たちで起こした火で作ったカレーライスは最高の味だったようです。

午後は三義山のハイキングを行いました。途中、辛い時には歌ったり、声をかけあったりして、約4キロの山道を踏破しました。自然の中で、学年や学級の絆が深まる一日となりました



【熱さと煙に耐えながら】



【今日のカレーは格別】



【頂上で一息】



【ゴール目指して前進】

地域の力をお借りして

～学校支援ボランティア募集～

6月①号で野木町立小中学校学校運営協議会の主な3つの機能について掲載いたしましたが、その中の一つ「学校、家庭及び地域の連携促進」を目指して、具体的な活動に取り組んでいこうというご意見が昨年度の協議会であがりました。

それを受け、今学期「校庭の草刈り」「登下校見守り」のボランティアを募集したところ、ご協力いただける方々のお申し出があり実施していただきました。ご協力ありがとうございました。今後も随時ボランティアを募集して参りたいと思います。「校庭の草刈り」「登下校見守り」に限らず、よいアイデアがありましたらお聞かせください。



【草刈り後の校庭】

社会の一員として「働く」～2年生職場体験学習～

6月26日(木)、27日(金)の2日間、多くの地元企業や事業所のご協力をいただき、2年生の職場体験学習が実施されました。体験先には職業体験だけでなく、事前にアポイントを取り打ち合わせにも訪問させていただきました。学校や家庭から離れ、人と接したり働いたりすることで社会で生きることを肌で実感した2日間でした。



本年度ご協力いただいた事業所は以下のとおりです。大変お世話になりました。

1 「七色の落書き」	12 野木病院	23 (株)サンスポーツ
2 南赤塚小学校	13 友沼小学校	24 阿波屋
3 ローローゼン エリ 総和店	14 (有)あおきスポーツ	25 (株)フレンドシップ 木下薬局
4 ローソ 野木丸林店	15 自衛隊	26 ローソ 友沼南店
5 かえる農場	16 中西珈琲	27 日産自動車古河店
6 いちご保育園	17 法得幼稚園	28 らーめん 葉月
7 JUNCTION HAIR GALLERY	18 野木町立図書館	29 ヤコ野木店
8 セブンス 野木友沼小学校前店	19 元祖からあげ本舗マルタツ	30 コバちゃん農場
9 イオン古河店	20 医療法人光風会 光南病院	31 りんご保育園
10 小山消防署野木分署	21 佐川野小学校	32 フラワープロジェクト マイ
11 中村屋野木店	22 ジョイフル本田古河店	

過去を学び未来に繋げる最高の旅～3年生修学旅行～

6月27日(金)～29日(日)に3年生は奈良・京都へ修学旅行に行きました。1日目は全学年で平等院や法隆寺、東大寺など有名な寺院を巡りました。2日目のタクシーでの班別行動では、自分たちで立てた計画に従い京都の名所を見学しました。最終日はクラスごとに「友禅染」や「清水焼の絵付け」を体験しました。とても暑い3日間でしたが、世界に誇る日本の歴史や文化に魅了され、一生の思い出となる3日間になりました。



校長からのメッセージ

～各学年の行事を終えて～

学校や家庭での学習だけで「生きる力」を培うことは難しい。なぜなら学びで得られた知識や技能は、多くの人との関わりや多様な体験をすることで自身の力として身についていくからだ。

自分の目や耳を使って見聞きし、自分の足でその場を歩き、自分の手で触れたり作ったりすることは多くの時間を要し大変疲れる。しかし仲間と言葉を交わし力を合わせながら様々なことに挑戦するからこそ、大変だからこそ「生きる」ことを実感し、自らを成長させるための種を手にてできる。

AIなどが進歩してより本物に近いものをつくることができても、本物は決して作れない。